JBIC/NEXI 環境社会ガイドラインに関する WWF コメントの背景説明の要旨

第４回ＪＢＩＣ／ＮＥＸＩ　環境社会ガイドライン改定コンサルテーション

２００８年4月7日

１．WWF(World Wide Fund for Nature)メコンプログラムよりガイドランへのコメントを提出した背景

- WWF は世界１００カ国で活動する NGO
- 世界で重要なエコリージョン：世界の中で貴重な種を含む、環境保全にとって重要な地域（陸地及び水環境）を２００箇所選定
- メコン地域では３つのエコリージョン
  - アンナン山脈
  - メコン川
  - 乾燥林
- メコン地域での重要な生態系に影響を与えている主な要因
  - インフラ整備：道路開発による生態系の分断。ダム開発による流域環境への影響。
  - 天然資源採取：鉱山開発・木材資源採取による森林劣化、又汚染物質の流出。
  - 大規模プランテーション：サトウキビ、キャッサバ、ユーカリ、ゴム等。森林や、重要な生態系を切り開いて行われることによる影響
- 日本とメコン地域：カンボジア、タイ、ベトナム、ラオスでは共に日本は ODA 第１の支援国。又、日本からの民間企業からの投資も増えており、これからの大メコン圏開発により、更に増える予定。

2.　WWF のコメントのアプローチ

- いかにして環境と開発の調和を図ることが可能か模索.
- 企業の投資によるリスクの低減

環境配慮の重要性

ＣＳＲの観点

リスクマネジメント：資金的なダメージを低減

- 批判ではなく、多様なステークホルダーを含めた協力及びコンセンサス作りによる建設的な解決方法の模索

3.　コメントの主な背景

- ＷＷＦのコメントは、５つの分野に関連している。

  １）ＳＥＡに関するコメント

  ２）フレームワーク、ツール、及びスタンダード作りへの協力の提案

３）業種別のスタンダードに関するコメント
４）相手国の環境基準に関するコメント
５）現場でのトレーニング等の協力に関する提案

以下、それぞれのコメントを提出した背景を説明

１）SEAに関するコメント

SEA（戦略的環境アセスメント）は、比較的最近取り入れられつつある手法であるが、今後世界的に普及していくと見られている。この考え方を取り入れていくことは、環境への配慮だけではなく、企業が戦略的にどこへ投資を優先するかなどの判断材料にもなり、リスクの軽減にもつながる。

例：ベトナムの中部にある Quang Nam 州の、観光地で有名なホイアンを流れる Thu Bon-Vu Gia 川流域では、大小あわせて４０以上のダム開発が計画されている。この状況を踏まえて、最近ベトナム政府はアジア開発銀行の支援のもと、Thu Bon-Vu Gia 川流域での水力発電分野の SEA を行った。その結果を受けて、現在 Quang Nam 州では既に事業計画のあるダム開発の一部を見直す意向を示している。又、川の生態系保護および下流域への影響を考えて、‘手付かずの支流’を残す政策を取り入れようとしている。更に、統合的な水力発電からの利益及び影響を反映させて、利益を影響を受けるコミュニティーに還元していく方策を試みる予定である。

２）フレームワーク、ツール、及びスタンダード作りへの協力の提案

WWF では、メコン地域での持続可能な発展のためのフレームワーク、ツール、及びスタンダードづくりを、各国政府及び主なステークホルダーと行っている。

例：**持続可能な水力発電への環境基準づくり Environmental Criteria for Sustainable Hydropower Development (ECSHD)**

- ECSHD の目的は、現地の状況に適して、持続可能な水力発電を目指した基準・ツール作り、及びコンセンサス形成
- 主体:メコン河委員会、アジア開発銀行、WWF
- 初期段階（完了）:世界に存在する持続可能な水力発電の基準や、例などを集めたレビュー。（レポート有）
- ECSHD 本段階: すべてのステークホルダーを含め、環境基準・ツール作りを行っていくコンセンサス形成のプロセス。具体的なステップとして；

- ステークホルダーの分析
- メコン地域内での環境プランニングプロセス、水力発電のＳＥＡに関するアセスメント及びそこから得られた課題の洗い出し
- 水力発電計画のインベントリー作成
- 水力発電開発に伴う環境・生態系への影響を緩和する方策及びその資金源
- 環境基準・ツールの形成及びドラフト版の発表

- 環境基準・ツールの各国でのレビュー及び法制化

３）業種別のスタンダードに関するコメント

WWF では、世界的に様々なステークホルダーが参加して作り上げられている、業種別のスタンダード作り、及びその普及に関わっている。
例：

- 漁業資源認証に関するスタンダード：海洋資源協議会 (**M**arine **S**tewardship **C**ouncil) http://www.wwf.or.jp/activity/marine/sus-use/msc/index.htm
- 鉱山開発に関するスタンダード：Framework for Responsible Mining www.frameworkforresponsiblemining.org
- 農業分野でのスタンダード
  - ヤシ油：www.rspo.org
  - 大豆：www.responsiblesoy.org
  - さとうきび：www.bettersugarcane.org
- 森林認証に関するスタンダード：森林管理協議会(**F**orest **S**tewardship **C**ouncil) http://www.wwf.or.jp/activity/forest/sus-use/fsc/index.htm

現在・将来的にスタンダードが作られつつある分野

- 洪水地帯での道路建設に関する環境基準作り
  - デルタ地帯における、洪水が生態系の一部として果たす重要な役割を損なうことなく、又、洪水に耐えうる道路をいかにして建設すべきか、という技術基準を開発
  - 主体：Delft Cluster, UNESCO-IHE、メコン河委員会、WWF
- 山岳地・急斜面における道路建設に関する基準：今後進める予定。

４）相手国の環境基準に関するコメント

- 開発途上国での WWF の活動している現場で、環境基準が低い現状を目の当たりにしている。
- 又、基準があってもそれが遵守されていない例も頻繁に目にする。(例：不法森林伐採)

- 低い環境基準での操業、又不法に伐採された材料とは気づかずに、日本企業が投資をしてしまうことによるリスク。
- 途上国の環境基準を引き上げること、又法律遵守の手助けを行うことは、日本企業の投資リスクを低減することにもつながる。

５）現場でのトレーニング等の協力に関する提案

素晴らしい環境ガイドラインができたとしても、本当の意味で作られたガイドラインが機能していくためには、現地スタッフの JBIC/NEXI のガイドラインの理解及び各国での適用が鍵となってくる。

WWF は開発途上国の現場で、政府関係者・現地 NGO・コミュニティーなどを対象にした環境関連のトレーニングを、幅広い分野で行っている。現地での環境基準やその遵法性などに関する情報にも詳しい。WWF 以外にも、そのように現地での状況に詳しく、又トレーニング活動を行っている機関は多数ある。このような機関が JBIC 等の現地スタッフのトレーニングを行っていくことは、効率性が高いと考えられる。

WWF のコメントに関する問い合わせ先

WWF メコンプログラム・ウェブサイト
www.panda.org/greatermekong

担当者：
WWF メコンプログラム
安田由美子
Eメール：yumiko.yasuda@wwfgreatermekong.org
電話：+856-21-2166080 （ラオス国）
ファックス：+856-21-251883